

Newsletter

梶が谷から広がる輪

分院長挨拶

一人ひとりに最善の医療を。
分院がめざす“温かい医療”

消化管センター外科・医師対談

上部と下部、
2人の専門医が支える
“消化管治療の最前線”

＼今日からできる／
梶が谷発・
3分リフレッシュ体操

Vol. 01



国家公務員共済組合連合会

虎の門病院 分院
TORANOMON HOSPITAL KAJIGAYA

2025年8月発行

一人ひとりに最善の医療を。分院がめざす“温かい医療”

虎の門病院分院 分院長 竹内靖博

虎の門病院分院は、ここ梶ヶ谷の地に開院してから、2026年で60年を迎えます。分院は、本院（東京都港区）の機能を補完する慢性疾患治療センターとして設立され、慢性腎不全やウイルス性肝炎などの先進的な治療に取り組んできました。2001年には、増加する地域の医療需要に応えるかたちで一般外来診療を開始しました。各診療部門を拡充しながら、神奈川県北部における地域医療の一翼を担う総合病院へと発展してまいりました。2023年からは二次救急を担う医療機関となり、これまで以上に地域への貢献を目指しています。

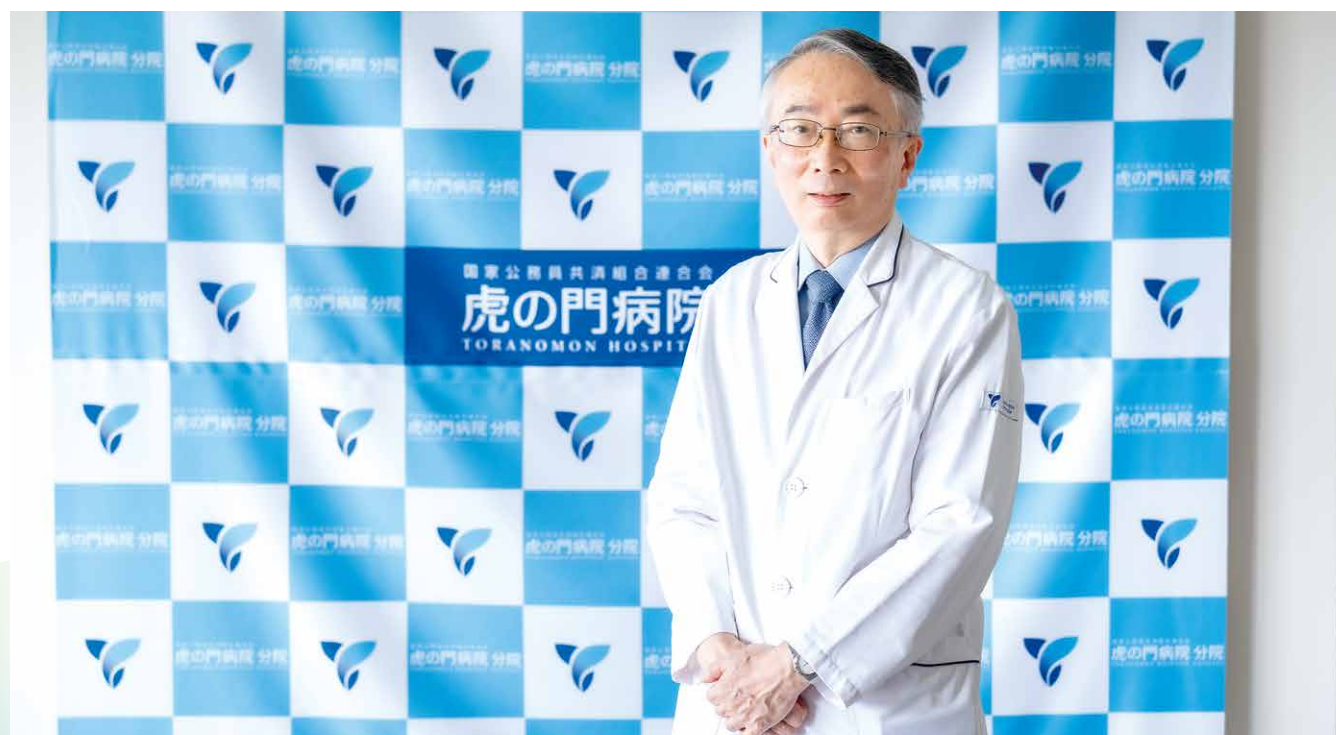
現在、分院には内科各科や消化器外科をはじめ、整形外科・泌尿器科・精神科・歯科など、計23の診療科が設置されています。内科系では、幅広い症状に対応する「内科総合診療科」の外来を設け、糖尿病代謝科、脳神経内科、呼吸器科などの専門外来とあわせて、充実した外来診療体制を整えています。また、腎不全に対する内科的治療や腎移植、循環器疾患に対するインターベンション治療、血液内科におけるさまざまな種類の造血幹細胞移植など、高度で専門性の高い医療も提供しています。消化器疾患では、胃がんや大腸がんなどの手術において、内視鏡的手術や身体への負担が少ないロボット手術を積極的に導入しました。さらに肝がんに対する治療も積極的に行っています。整形外科では保存的治療に加え、「手の外科」や「人工関節置換術」などの分野でも豊富な手術実績を有しています。さらに

泌尿器科においてもロボット手術を実施しています。

分院と本院の間では、医師の行き来を日常的に行いながら研究や診療に取り組んでおり、分院にない診療科での治療が必要な場合は、本院との連携のもとで診療を進める体制が整っています。共通のサーバーを利用しているため、診療情報の共有もスムーズに行うことができ、日常的な病気やけがから、高度な治療が求められる患者さんまで、幅広く対応できることが当院の大きな強みです。

高齢化が進むなか、入院が長引くことでADL（日常生活動作）の低下や合併症の増加が懸念されます。分院では、適切な治療のうえでできる限り早期の在宅復帰を目指すことが重要と考え、回復期リハビリテーション病棟と地域包括医療病棟を活用しながら、患者さんの病態や回復状況に応じたリハビリテーションを実施しています。また、地域の開業医の先生方とも密に連携し、地域全体で切れ目のない医療の実現に努めています。

私たちが大切にしているのは、「患者さんにとって安全な医療の提供」、そして「医療者と患者さんやご家族が情報を共有し、話し合いのもとで方針を定めて医療を進めること」です。病状や生活環境、価値観は患者さんごとに異なります。健康への不安を抱えるすべての方々と誠実に向き合い、一人ひとりにとって最善の医療とは何かを常に考え、温かい医療を提供することで、今後も地域社会に貢献してまいります。



戸田 重夫

●消化管センター外科
(下部) 部長 (本院併任)
大腸がんや虫垂炎、腸閉
塞の手術などを担当

春田 周宇介

●消化管センター外科 (上部)
部長 (本院併任)
主に胃がんや食道がんといった
悪性腫瘍、逆流性食道炎のよう
な良性疾患の手術などを担当

上部と下部、2人の専門医が支える“消化管治療の最前線”

——分院の消化器外科の特徴について教えてください。

春田 お腹や胸に小さな穴をあけて、そこからカメラや器具を入れて行う「鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡手術）」に力を入れています。おなかを大きく切る開腹手術に比べて、体への負担が少なく、回復も早いのが特徴です。上部、下部ともにほぼ全例が鏡視下手術です。

戸田 虎の門病院では本院・分院ともに早くから腹腔鏡手術を取り入れてきました。大腸がんの多くは今、腹腔鏡での手術が主流です。昔のような開腹手術では、術後の痛みや回復の遅さが大変でしたが、今はご高齢の患者さんでも、翌日には歩ける方が多い。短期間で退院される方も増えています。さらに、大腸がんでは「ロボット支援手術」も積極的に行っています。こちらでも傷が小さく、より精密な手術が可能になります。

春田 当院の消化管センター外科では、スタッフ全員が「内視鏡外科技術認定医」という専門資格を持っていて、経験も豊富です。食道や胃のがんでは、がんだけをしっかり取り除きつつ、食べる機能に関わる健康な部分はできるだけ残すという、丁寧な手術を心がけています。

戸田 「がんをきちんと取り切ること」が第一ですが、その後の生活がずっと続いていくという視点も大事です。たとえば、他の病院で「肛門を残せない」と言われた患者さんが相談に来ることもあります。放射線や抗がん剤の力も借りながら、なるべく肛門を残すような治療を行うこともあります。

——日々の診療で心がけていることは？

春田 それぞれの医師が専門的な治療をしていますが、一人で判断することはありません。胃がんの患者さんでも、上部と下部

がチームで診療し、必要に応じて内科とも連携します。

戸田 もう一つ大切なのは、医療者の考えを患者さんに押し付けないことです。医師が「これが一番いい」と思っても、それがその人にとっての最善とは限らない。一緒に考える姿勢が大切です。

春田 特にご高齢の方の場合、「しっかり治すけれど体に負担の大きい治療」か、「治る確率は少し下がるけれど生活の質（QOL）を保てる治療」か——患者さんやご家族と一緒に選べるよう、いくつかの選択肢を提示します。どんなケースでも、「できるだけ患者さんがつらい思いをしないように」というのは、常に考えています。

——地域の先生方とは、どのように連携していますか？

戸田 定期的に交流の場を設けていて、地域の先生方と顔の見える関係ができています。患者さんの紹介もスムーズですし、術後の経過観察なども連携して行っています。また、地域の先生が診察のなかで「すぐに大きな病院で診てもらった方がいい」と判断されたときは、直接僕たちに連絡をくださることもありますし、患者支援部（医療連携）を通じて連絡をいただく場合もあります。いずれにしても、すぐにつながれる体制が整っているんですね。お互いに信頼し合っていて、「一緒に患者さんを支えていこう」という連帯感があります。

春田 たとえば、具合が悪いときは近くのクリニックでまず診てもらい、必要があればすぐに当院につながる。そういった仕組みがあることは、地域の皆さんの安心につながっていると思います。これからも、地域の信頼に応えられる病院であるよう、しっかり取り組んでいきたいですね。

今日から
できる!

梶が谷発・3分リフレッシュ体操

外来やご自宅でできる、簡単で続けやすい運動を虎の門病院分院のリハビリスタッフが
ご紹介します!無理のない範囲で、呼吸を大切にしながら行ってくださいね。

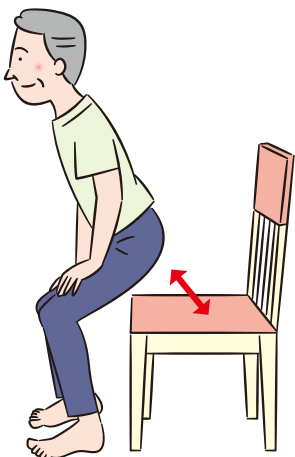
スクワット運動

ロコモシンドローム予防

ロコモティブシンドロームとは、骨・関節・筋肉などの「運動器」の障害により移動する力が低下し、要介護になりやすい状態のことを指します。その予防には、椅子からの立ち上がり運動が効果的です。

スクワット運動

しっかりと固定された椅子に座り、足を肩幅に開きます。両手は太ももの上に置き、反動をつけずにゆっくりと立ち上がりましょう。これをゆっくり10回繰り返します。



膝や股関節の柔軟性向上や
下半身の筋力アップに
効果があります。

肩の上下運動

上半身のストレッチ体操

肩こりは、筋肉が硬くなって血流が悪くなることで起こります。ストレッチで筋肉を動かし、血行を促進することが大切です。

肩の上下運動

椅子に座り、肩を耳に近づけるようにゆっくり引き上げて、その後ゆっくりと下ろします。息を吸いながら上げて、吐きながら下ろすと、より効果的です。これをゆっくり10回行いましょう。



上半身のリラックスや
姿勢改善にもつながります。

監修: 虎の門病院 分院リハビリテーション科

公開講座のご案内

「今さら聞けない?

知っておきたい糖尿病の話」

- 講師: 辻本哲郎部長(糖尿病内分泌科)
- 日時: 2025年11月8日(土) 11:00~
- 内容: 糖尿病について、やさしい言葉で分かりやすく解説します。
糖尿病についての「正しい知識」を知ることで、生活が前向きに変わる第一歩になります。ぜひお気軽にご参加ください!



国家公務員共済組合連合会
虎の門病院 分院
TORANOMON HOSPITAL KAJIBAYA

〒213-8587 神奈川県川崎市高津区梶が谷1丁目3番1号

☎(代表) **044-877-5111**

今後のより良い紙面づくりのため、
こちらからアンケートの
ご協力をお願いします

